

## カリフォルニア大学1年間留学体験記

留学地：アメリカ合衆国カリフォルニア州デイビス市  
 留学校：カリフォルニア大学デイビス校 (UC Davis)  
 留学期間：2016年3月21日～2017年3月29日  
 東京理科大学 理学部第一部 応用物理学科 3年 **公平 拓見**  
 (埼玉県立浦和高校卒)

### はじめに

筆者は、東京理科大学に在学中の2016年3月21日から2017年3月29日まで、カリフォルニア大学デイビス校に1年間の留学をした。その時のことをありのままにお伝えしたいと思う。

### 留学を決意した理由

筆者は英語が最も苦手な科目であり最も嫌いな科目であった。いつしかそのような自己暗示にかかっていた。しかしこのままではこれからの社会で通用しないことは分かっている。何とか苦手意識を克服したい気持ちは強く持っていた。時間を自由に使える学生のうちにしかできない貴重な経験をしたいともかねてから考えていた。

そんなときに筆者が所属する理学部応用物理学科で留学プログラムの説明会があり、参加した先輩の話を伺える機会を得た。その説



カリフォルニア大学デイビス校のキャンパスの風景

明会后、留学は英語力の向上はもちろん、人格形成に必要なものも成長させられる良い機会だと考えるようになり、プログラム参加のためならば嫌い意識を持っている英語を少し勉強する前向きな意識が高まってきた。幸い留学に参加するだけなら、事前により高い英語力を習得していなくても、留学に必要なTOEFL ITP510点とGPA3.0以上の条件を満たしたので、無事に留学することが決定した。

### 留学最初の大きな壁

留学するや否や、最も大きな壁にぶつかった。ホームシックである。生まれて初めて海外に出た筆者は、英語が話せないのももちろんのこと、アメリカ自体の雰囲気や、ホームステイ先の環境に順応できず、これから先の1年間を想像し悲壮感に襲われた。慣れるまでに1～2週間程度を要した。その際は、理科大の留学担当の方や、応用物理学科の教授の方にまで迷惑をかけてしまい本当に申し訳なかったと感じている。しかし、留学期間の1年間でこれが最も辛かったことであり、今では、この経験があったからこそ、留学中に乗り越えられたものも多かったと感じている。おそらく、人間的に最も成長したのはこの出来事であった。

### 語学学校時代

TOEFLでUC Davisの本キャンパスの授業を受けるのに必要な点数を取るまでは、Extension Centerというところで、アカデミッ



英語を勉強していた語学学校



自然が多いキャンパス内には野生のリスが生息している

クな英語の勉強を行わなければならない。ここでは、日本人の学生も多かったものの、授業は当然英語で行われ、筆者にとってはとても新鮮であった。授業は得られるものが多く、とても楽しかった。

Extension Centerには中国、韓国などのアジア圏、中東諸国、南米圏等の国から来ている学生もいて、そのような人たちと友達になって会話をすることで、国や地域による価値観の似ている点や異なる点を知るいい機会になった。また、ここでは毎週のようにBBQパーティーやピザパーティーなどのイベントがあり、とても楽しんだ。

しかし、語学学校での授業やイベントを楽しんでいる一方で、TOEFLの点数の向上に追われていた。これが、留学した1年間の中で2番目に大きな壁であった。夏学期終わりまでに基準点をとらないと、日本に帰国させられ、留年するという状況下に置かれていた。アメリカに行って初めて受けたTOEFLは精神的な疲れからか、日本で受けたときよりもかなり点数が落ちてしまった。その後、TOEFLの勉強をし始めたが、2回目もうまくいかなかった。その時点で、4回あるチャンスのうちの2回が終わってしまっていた。そこで、TOEFLの点数を上げる勉強をやめて、自分の英語力自体を上げることを考え始めた。

まず、就寝前1時間程度イギリスのBBC NEWSを毎日欠かさず聞き始めた。最初は聞き取るのも大変だったが、そのうち耳が慣れてきた。それに加えて、本屋で面白そうな小説を購入し、それを読むことを始めた。当然、英語勉強用の教材ではなくネイティブスピーカー向けられたものなので、難しい単語や表現がいくつもあった。しかし、勉強というよりは趣味でやっているという感覚だったので楽しかった。その後3回目のTOEFLを受けた。受けている最中でさえ、それまでよりはるかに英語が聞きとれ、速く読めるようになっていくことを実感できるほどであった。テストが終わった後、絶対に基準点を超えたという確信があった。案の定、結果は基準点を超えていて日本に強制帰国させられずに済んだ。

### UC Davisの本キャンパスでの授業

無事にTOEFLの点数をクリアしたので、UC Davisの本キャンパスで留学目的の授業は開始された。筆者は応用物理学の専攻のため、UC Davisでは物理学の授業を受講した。緊張とともにUC Davisの本キャンパスでの最初の授業の教室に着いたときから、学生の授業に対する態度の違いに驚いた。

まず、初めに驚いたのは、席は前の方から埋まっていくことである。筆者は初回の授業

